

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 100

1960. 12月(1961. 1月10日)

### 録 事

12月8～17日 布施委員・高松研究員は中海美保湾の生物調査のため島根県に出張。

12月8日 10時30分～11時30分まで白赤副総裁秩父宮妃殿下お成り、水族館御見学。

12月10～18日 山路委員は関西電力カ多奈川発電所の取水路付着生物調査のため出張。

12月15～20日 関西TVのテレビ劇映画「渾火は消えず」と「ともしびの詩」の(水族館)撮影のため京都歌舞伎座映画部白坂茂氏ほか15名来館。本番組は1月13日と1月20日の午後10時30分より行われる予定。

12月20～23日 内海時岡両委員は「新日本動物図鑑」の編集委員会出席のため上京。

12月26日 恒例の忘年会を大浦荘で催した。

英口Plymouth海洋生物研究所に留学中の原田研究員は1年半の研究生活を終え12月9日帰口の途についた旨音信あり、船便の関係で日本着は1月中旬となるだろう。

小芝満子事務員は10月1日付、深見省三事務員は10月15日付で採用。手不足になやまされていたが漸く地についた状態になった。

本年度の維持費で、実験所構内の道路の一部に10cmの土を入れ、砂利をふみこんで補修した。

また、災害復旧費によって、運物館の北の田辺湾側に高西組により施行されていた船着場は完成したが、船着場の経費まで出なかった。かねてより不便を感じていたので、この工事につき構内までの船着場をつくり上げ、正門前に仮設してあったウインチ置場を移転した。内諾を得ていたその経費277,000円は臨時費より支出し、12月29日支拂った。

海の生物生態レザン絵はがき第一集初版一万部は大半売りつくしたので、このたび一万部を再版した。

## 業 務 概 況

### ◎ 12月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水族館発売	個人	5028	76562	126	5239	5154	81801
	団体	8246	169709	-	-	8246	169709
交通公社発売		3544	68388	-	-	3544	68388
明光バス発売		1130	181282	255	4465	1130	187747
合 計		27948	314659	381	11704	28329	507645
無 料			養護施設児童他			444	1599

団 体：一般 73組, 学生 6組 合計 79組

### ◎ 12月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	760,546	8,951,292
{ 窓口売上	229,611	4,294,113
{ 交通公社クーポン	59,715	1,109,129
{ 明光バス観光券	471,220	3,548,050
予金・積立金利子	—	461,885
手 数 料	46,733	445,190
絵はがき拂 下	30,270	279,810
パンフレット拂下	1,110	64,030
魚 類 拂 下	—	200
雑 收 入	645	4,680
諸施設改善積立金より繰入	277,000	1,689,099
合 計	1,116,304	11,896,186

※ 明光バス観光券未収分 大人券 14297枚  
小人券 278枚

### ◎ 12月の支出

#### 水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	311,485	1,250,802	期末勤務手当他
会議費	5,780	127,364	
備品費	49,100	485,330	TS-106 水中ポンプ他
消耗費	82,851	312,213	石炭他
事業費	63,455	450,473	
維持費	91,040	245,383	構内道路補修他
其他諸費	365,466	979,969	建物借用料及観光協会へ寄付
積立金	108,544	1,858,212	
合 計	1,077,721	5,709,746	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	28,208	128,011	区内海委員
奨学金	—	60,000	
備品費	—	173,008	
消耗費	—	—	
刊行費	—	859,983	
役務費	—	123,370	
合 計	28,208	1,344,372	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	97,400	447,989	期末勤劬手当世
備品費	—	25,200	
消耗費	—	2,350	
役務費	—	8,980	
合 計	97,400	484,519	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
水族館建費推進費	11,040	
海の生物生態写真絵はがき第1集再版	250,000	
全 上 米3集原版製作費	4,000	
船揚場工事	277,000	
合 計	542,040	2,520,111

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	1,077,721	5,709,746
実験所経費	28,208	1,344,372
伝物館経費	97,400	484,519
臨時費	542,040	2,520,111
合 計	1,745,369	10,058,748

◎ 12月末現在高

前月よりの繰越	2,466,503
今月の収入合計	1,116,304
今月の支出合計	1,745,369
現 在 高	1,837,438

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	28018	28329	+ 311

## 水族館記事

- ◎ 新しい大水槽ができてはじめての正月を迎えるので大型魚の入槽が期待されていたが、月末に海が荒れたので、入槽は全くなかった。なお、大水槽の説明板は25×20cmの大きさに説明図と、その下にその種名を記入して北面のタイルに掲示するようにした。
- ◎ 12月下旬に入って平均水温は15℃を下った。28日にタイマイ（N0.32水槽）に1KWの電熱暖房を、また、30日にはクマノミ（N0.2水槽）に同様設置した。
- ◎ 11月21日に入槽したウシエイは4日死亡した。背をアイゴにつつかれて多少傷があったので、このことが原因と考えられる。なお、アイゴは食パンを好んで食べるのがわかった。このような餌を与えて、他の魚をつつかないようにすることができよう。
- ◎ 久しぶりにツノダシが7日に入槽したが29日に死亡した。
- ◎ クロアナゴが21日に2尾入槽した。全長約120cmで約160cmである。
- ◎ 22日、瀬戸のエビ網にタイマイがかかったので購入した。甲長33cmでN0.32水槽に他の2尾のタイマイと共に飼育している。
- ◎ 23日ネコザメ体長約60cmが入槽
- ◎ 17日タツノオトシゴが1個体入槽したが20日に死亡
- ◎ 12月31日現在 観覧水槽に収容飼育中の動物は総計131種、1668個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	1種、	フジツボ類	2種、	ヒトデ類	3種、
ヒドロ虫類	1種、	エビ類	9種、	ウニ類	6種、
ヤギ類	4種、	ヤドカリ類	3種、	ナマコ類	2種、
イソギンチャク類	6種、	カニ類	9種、	ホヤ類	1種、
イシサンゴ類	9種、	二枚貝類	3種、	軟骨類	3種、
ハナギンチャク類	1種、	巻貝類	7種、	硬骨類	48種、
多毛類	2種、	アメフラシ類	1種、	カメ類	3種、
カブトガニ類	1種、	イカ類	1種、		
ウミトサカ類	1種、	ウミシタ類	1種、		

## 運物館記事

- ◎ 従来奄美大島以南の珊瑚礁にのみ棲息されると信じられていた熱帯性の大型ウニ パイノウニ *Heterocentrotus mammillatus* (Linné) が珍しくも瀬戸崎東前(通称小島沖)水深5~6畧の所で操業されたエビ網に1個体かかった。本州では初めての記録として特記に値する。この貴重な標本は採取者金谷千代雄氏より寄贈をうけた。採取日は12月8日。

### 資 料

- ◎ 12月の気象 (9時観測)  
南水槽室 (水温・比重はN.O.2号水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(24)	7	9	8
室 温(°C)	$\frac{11.9 \sim 15.0}{13.7}$	$\frac{11.9 \sim 15.0}{13.7}$	$\frac{7.0 \sim 14.5}{11.5}$
水 温(°C)	$\frac{15.13 \sim 17.68}{16.71}$	$\frac{14.53 \sim 16.46}{15.71}$	$\frac{11.59 \sim 16.22}{14.39}$
比 重(0.5)	$\frac{24.90 \sim 25.51}{25.25}$	$\frac{25.11 \sim 25.61}{25.29}$	$\frac{25.19 \sim 25.74}{25.49}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{16.02 \sim 18.89}{17.64}$	$\frac{15.62 \sim 17.24}{16.65}$	$\frac{12.47 \sim 17.04}{15.26}$
比 重(0.5)	$\frac{25.28 \sim 25.61}{25.47}$	$\frac{24.64 \sim 25.61}{25.16}$	$\frac{24.25 \sim 25.75}{25.43}$

### 来 訪 録

- 12月18~22日 関西電力研究所員 岡田肇, 宇仁菅利次氏付着生物研究のため来所。  
 12月19~21日 京大技術課渡辺養一, 山田繁与技官母船着場竣工検査のため来所。  
 12月21~23日 防災研究用の海上観測塔建設工事着手のため, 京大地球物理  
 国可助教授および請負者佐伯建設工業会社員来所。  
 12月25~28日 甲南女子高校生20名臨海実習のため来所。

昭和36年1月10日 (NO 100)

編集兼  
発行者  
発行所

山路 勇

瀬戸内海温泉会  
和可山温泉  
瀬戸内海温泉  
(Tel.白浜温泉 515)